

【NGO／NPO等による推進体制の例】

①NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）

2003年6月、国内外のESDをパートナーシップで推進していくことを目的に、『「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）』が発足しました。現在、環境教育・開発教育・人権教育・平和教育・青少年育成などをテーマとするNGO／NPOや教育機関、企業等約100団体からなるネットワークが形成され、政策提言、研修、情報発信、国際ネットワーク形成などが展開されています。

②公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

日本ユネスコ協会連盟は、ユネスコ憲章の理念に共鳴し、国際平和と人類共通の福祉の実現を目指し、教育や文化の面でさまざまな課題解決に取り組むNGOです。企業と連携したユネスコスクールへの支援として、高校生のESD作文コンテストの開催を含めた「ESD国際交流プログラム」等の実施、「ユネスコスクール10の質問・事例・資料集」などの刊行物の発行、「ユネスコ協会ESDパスポート」を通じたボランティア活動の推進等、様々な活動を通じて国内外のESDの推進を図っています。

③公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、1971年の設立以来、アジア太平洋諸国と、文化協力、教育協力、人物交流を進めてきました。国連E国連持続可能な開発のための教育の10年（2005～2014年）ジャパンレポート21SDの10年の開始を受け、フォーラム・研修・プロジェクトを通して、国内外の政府、国際機関、NGO、大学などに、ESDの理念を伝えています。ESDフォトメッセージコンテストや写真展、教材の普及、ユネスコスクール支援、公民館やコミュニティ学習センター（CLC）の交流なども行っています。

【国際機関との連携による推進体制の例】

○国際連合大学

環境省からの支援を受け、国際連合大学では、2003年、持続可能な開発のための教育プログラムを国際連合大学高等研究所（2014年1月より国際連合大学サステナビリティ高等研究所として統合）に立ち上げました。本プログラムでは、RCEをまとめるグローバルRCEセンターとして、また、アジア太平洋環境大学院ネットワーク（ProSPER.Net28）の2つのフラッグシップ・プロジェクトを通じて、地域レベルのESD活動の促進と高等教育機関におけるESDの強化に取り組んでいます。また、国連のシンクタンクとして、分野横断的な研究、能力開発、ESDの政策決定に関する国際的プロセスへの戦略的参画を通じて、ESD理念の提唱と普及、政策提言や対話の促進に貢献しています。

※『国連ESDの10年 ジャパンレポート』から抜粋